

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p>○全国学力・学習状況調査では、全国・都の平均正答率を概ね上回っている。しかし、文法の知識を用いて文章を推敲する問題と、説明文に図示された資料の意図を問う問題では、都を下回る結果であった。</p> <p>○文章表現や表現の工夫の問題の無回答率が高い。効率性を追い求める傾向が強く、記述や表現活動を苦手とする生徒が多い。</p>	<p>○文法の知識は定着しているが、実生活の中で生かす場面が少ない。文法の力を活用した推敲の授業等を意識的に行っていく。</p> <p>○説明文の資料と本文の関係性を理解し、読解力や説明力を養う。また、問題文を慎重に読み、正確に解答することを徹底させる。</p> <p>○文章を書いた後の振り返りを工夫する。自己評価や他者評価を効果的に行い、表現することの意義や効果を実感させるようにする。</p>	
社会	<p>○知識・理解の定着に個人差がある。</p> <p>○既習事項を生かして文章を書くことが苦手な生徒が多く、思考力・表現力に課題がある。</p> <p>○基礎的基本的な知識の定着度に差が見られる。</p>	<p>○毎時間、前時の確認小テストを行い、知識の定着を図る。また、タブレット端末等を活用し、分かりやすい授業を行う。</p> <p>○自分事を意識できる単元を貫く問いをたて、既習事項を活用し、その問いに迫る振り返りを行うことで、思考力・表現力を高める。</p>	
数学	<p>○全国学力学習状況調査の結果を見ると、全国・都の平均正答率を概ね上回っている。しかし、関数の分野に関する設問では、都の平均を下回っている設問もあった。</p> <p>○基本的な計算や知識が身に付いている生徒は多いが、既習事項を活用した発展的な問題や文章の問題になると、身につけていたはずの知識を活用できない。</p>	<p>○授業冒頭に行っている復習ドリルの取組を生かし関数分野の既習事項の復習を行う。また</p> <p>○本時の目標を明確にし、生徒の習熟に合わせた課題に取り組むことで、基礎基本となる知識・技能の定着を図る。</p> <p>○思考力を養う問題や発展的な内容には ICT 機器を活用したり、グループ活動を取り入れたりとしながら、既習事項を確認し、最終的には個人で問題を解決できる能力を養う。</p>	
理科	<p>○授業で習った語句などは覚えているが、既習事項を活用した考察や問題になると身に付けた知識を活用できなくなる。</p> <p>○反応式など、暗記以外のものになると問題を解くのを諦め、考えることを放棄してしまう生徒が多くみられた。</p>	<p>○小テストを継続しながら、学習内容に関連した発展問題に多く取り組み、応用力を高めていく。また、テストの返却時には詳しく解説する。</p> <p>○生徒が納得できるように、わかりやすい例えを用いながら授業の内容を教える。</p>	
音楽	<p>○発声が不十分なので、「校歌」を使用しながら声を出すことを課題としている。</p> <p>○器楽や鑑賞には、意欲的でグループ活動や練習にも熱心に取り組むことができるので、音楽表現力の工夫を高めることが課題である。</p>	<p>○歌唱については、歌う機会を増やし、ハーモニーを感じながら、仲間と歌唱する楽しさが感じられるような授業作りをしていく。</p> <p>○鑑賞等では、音楽的要素の語彙の使い方、それに伴った文章表現ができるように、ワーク等を使用する。</p> <p>○器楽の実技の技術の向上では、ペア学習やグループ練習を多く取り入れ、他者へのアドバイスをすることで、自分の課題を見つけ、それを解決していく力を身に付けさせていくようにする。</p>	

美術	<p>○自分の意図にあった表現方法や描画材、色の選択に難しさを感じる生徒が多い。</p> <p>○課題をよく思考せずに、終わらせるといった姿勢の生徒が見られる。また自分の考えを記述することに課題がある。</p>	<p>○構図だけでなく配色や画材の工夫ができるように、参考作品や生徒の作品を使って事前に表現方法や工夫の仕方、それによる効果などを学ぶインプットの時間を増やす。</p> <p>○学習カードやワークシートへの記述が充実したものになるように、わかりやすい発問を考えたり例示を付け加えたり工夫する。</p>	
保健体育	<p>○技能の成功に向けて、練習に黙々と取り組み、やる事が明確になっている活動に対して、積極的に参加することができる。</p> <p>○グループワークでは、他者に配慮した動きができることが少なくないが、意欲に差があり、交流の差が生まれやすい。</p> <p>○单元ごとに運動・スポーツが得意な生徒についていこうとする意識があるが、自主的に工夫をし、主体的に取り組む姿勢に課題がある。</p>	<p>○单元ごとに競技の特性を利用して、性差や技能差を考慮した班編成を行う。</p> <p>○单元の課題や授業の目当てを明確にし、運動活動を意欲的に行うことができる雰囲気づくりを工夫する。</p> <p>○それぞれに合った、運動・スポーツの関わり方を身に付けるために、「する」だけではなく、「見る」「知る」「支える」場面を増やしていく。</p>	
技術家庭	<p>【技術】</p> <p>○生活から得た知識を結びつける意欲がある。語句の意味や使い方を誤っている場合がある。</p> <p>【家庭】</p> <p>○課題に対し、話し合い活動などに取り組む時間を確保した分、まとめの時間が不十分となった。</p>	<p>【技術】</p> <p>○本来の意味や知識を説明し、今までの知識とリンクさせるために使用例などをおりませながら進める。</p> <p>【家庭】</p> <p>○思考判断した内容を活かして実践できるよう、ふれあい学習に活かすことを意識的に進める。机間指導を増やす。</p>	
外国語	<p>○英検3級以上に70人以上、英検準2級以上に29人が合格している。しかし、生徒によって、英語力の個人差が見られ、二極化しつつある。</p> <p>○4技能のうち、話すことが得意な生徒が多い。一方で、読むことが苦手な生徒も多くいる。</p>	<p>○語句指導に関しては、反復練習を増やすことで、基礎の定着を図る。習熟度が同じ生徒同士で、ペアワークを行うことで、意欲の低下を防ぐ。読むことが苦手な生徒のため、スモールステップで読解練習をしている。一方で、習熟度の高い生徒には、難関校の過去問に取り組ませるなど、発展的な問題に取り組むようにする。</p> <p>○スモールステップで指導する。沢山のモデル文をインプットさせて、それらのモデル文を応用してオリジナルな意見が言えるようにする。ALTとの会話の機会を積極的に作っていく。</p>	